

原 著

教員志望学生の指導のあり方 (1)

—教職相談室の利用の実態から—

松原泰通 (岡山大学大学院教育学研究科)

※山脇 健 (岡山大学大学院教育学研究科)

教職相談室は、開設6年目となるが、本年4月より松原と山脇が前任者である西崎の後を受けつぎ、教員志望の学生の指導に当たっている。

指導の中心は、論作文、個人面接、集団面接、集団討論、模擬授業、場面指導、ロールプレイングなどであるが、その他に進路の相談、ボランティアや講師希望の相談など、学生の不安なこと、挑戦したいことなどの相談に当たった。来室学生の積極性に我々も刺激を受け、現場の教師として力を発揮できる人間性の向上を中心に考えて、指導、支援した。

その結果、来室者の増加と合格者の増加を達成することができた。

キーワード：教員志望学生、教職相談室、指導内容、指導効果

1. はじめに

本学教育学部生の大半は、教師への道を志して、入学してきている。

そのような教職志望学生の支援をするため教職相談室が設置され、本年で6年目となっている。松原と山脇はこの4月より、前任者・西崎相談員の5年間の取り組みの成果を踏まえ、指導・支援に当たってきた。

一方、教員採用選考試験においては、

筆記試験：一般教養・教職教養・教職専門および論文など

面接試験：個人面接、集団面接、集団討論、模擬授業、場面指導、ロールプレイングなど

実技試験：音楽、美術、水泳、球技、器械体操などが行われる県・市が大半である。

当相談室では、学生が受験の際、少しでもそれぞれの持ち味や、実力が発揮できるように、勉強の仕方から練習の仕方、繰り返し努力することなどマンツーマンで話し合いを通して、納得し、自信をもって試験に臨めるように指導・支援している。

主な指導事項と指導意図および指導のポイントは次のとおりである。

1. 論作文

論作文には、学生一人一人の教育的素養がにじみ出てくるものである。試験官は、この論作文によって受験生の人柄、人間性、情熱、迫力、協調性などを推量していくものと考えている。そして、教師と

してやっていけるか、その誠実さや人間関係力などを感ずる。それだけに、受験生がその持ち味を限られた時間の中で表現できるように指導することが重要となる。その意味で、元気で意欲がわき出てくるように配慮し、賞賛できる点をチェックしていく。

指導のポイントとしては、

- ①出題者の意図をつかむこと。
- ②全体の構成を考えて書くこと。
- ③簡潔な表現で、読みやすくすること。
- ④意欲を書き表すこと。

について、学生の記述してきた論作文をもとに指導をくり返した。

また、教員採用にかかわるすべての指導の最初に論作文から始めたが、これは後述の集団討論などにも自分の考えをまとめることが生きて働くと考えてのことである。

2. 集団討論

集団討論では、受験生の発言態度や話し合いに参加する態度、リーダーシップの取り具合、話し合いの雰囲気や場面理解の様子などから、教育的情熱や協調性、一人一人の人間性や迫力などを推量していく。そして、学校という組織体の中で、その一員としてやっていけるかを見極めることになる。その意味で、学生一人一人が意欲的に、しかも、状況に応じた自己表現ができるように導くことが重要と考えている。

※平成20年8月31日退職

指導のポイントとしては、

- ①最初の3分間で自分の考えをまとめること。
- ②明るく誠実に考えを述べること。
- ③他の発言者の意見に耳を傾けること。
- ④試験官を意識しつつも、集団での話し合いの流れを汲み取ること。

などについて、くり返し指導した。

また、入退場の動き、礼の仕方など、気持ちのよい動きになるように練習させた。これは、その他の面接試験のときにも生きてくることである。

3. 個人面接

個人面接では、一人一人の受験生の人柄について、率直に尋ねることにより、その応答の態度や内容について吟味し、可否の判定の根拠資料とされる。それだけに、かなりの緊張感をもって練習に臨んできた。また、学生にも、各県・市の過去問について調査させ、各自、その答弁内容をまとめ、練習しておくようにさせた。相談室では、本番並みの心構えで、明るく誠実に話すように指導した。

指導のポイントとしては、

- ①何故この県・市を受験したかを試験官に共感してもらえるように、各県・市のホームページなどで、教育目標、求める子ども像、街づくりの重点などについてまとめておくこと。
- ②①との関連の中で、各自のふるさとの思い出などを整理しておくこと。
- ③何を尋ねられても、正直に、誠意をもって対応すること。
- ④趣味、特技を伸ばしたり、アルバイトやボランティア体験、部活動など積極的に取り組み、コミュニケーション能力を高め、人間関係づくりができるように各自の人間性を磨くこと。

などについて指導した。

4. 模擬授業

教育実習の体験しかないのが、大半の学生である。中には、一度も授業の経験のない学生もいた。学生支援ボランティアにすぐに行くように指導した。学生も、自分が就こうとしている仕事について、大まかにでもわかり、ほっとしていた。

昔と違い、現在は、新採用教員に即戦力となることが期待されている。それだけに、明るくしっかりと授業態度が求められる。その意味で、自信をもってできる授業から練習を始めるように指導した。実習経験のある学生から、附属小・中で一度でも実践した指導案で、思い出させながら練習した。学生

同士で子ども役になり、よい協力関係の中で取り組んでいた。

指導のポイントとしては、

- ①教語、教態の基本
- ②導入の雰囲気づくり
- ③板書計画のたて方
- ④子どもへの語りかけの仕方

などについて指導した。ここはもう一歩と感じたところについては、少し示範も試みてみた。

5. ロールプレイングや場面指導

養護教諭を目指す学生には、保健室の場면을想定させ、学生同士で教師役、子ども役に代わり合ったり、批評・反省をくり返した。又、生徒指導困難な状況が考えられる都道府県においては、過去間にも生徒指導の困難な場面の対応力が試される内容が多いので、その練習をくり返した。

指導のポイントとしては、

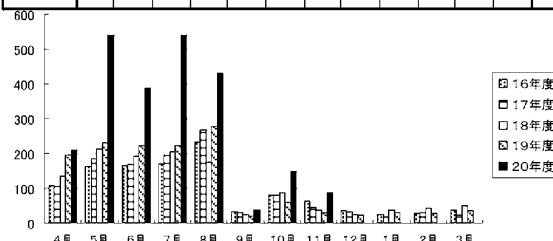
- ①どのような場面が提示されても、即時対応を迫られるため、各自のベースとなる教育観、教育哲学、児童観をもっていないと、迫力が出てこないこと。
 - ②教師（自分）の都合のためでなく、子どものための実践であること。
 - ③一人だけで解決しようとせず、学校という組織体の一員として対応していくこと。したがって、誰と協力して対応すべきかの判断をすること。
- などについて指導した。各県とも非常に現実的な問題が出される傾向にあり、しっかりした教育観をもつこと、また、時事問題に関心をもち、世の中の変わりゆく状況にアンテナを張っておくことが求められる。

以上のような指導意図をもって、それぞれについて指導してきた。

II. 利用の実態

1. 利用者総数（過年度比較）

年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
16年度	108	163	166	170	232	33	79	63	35	25	28	38	1140
17年度	104	184	168	195	267	29	81	46	33	17	31	23	1178
18年度	134	213	193	205	171	24	87	37	25	37	42	49	1220
19年度	196	250	222	222	276	21	61	30	23	31	27	36	1377
20年度	209	539	387	539	430	37	148	88					2377



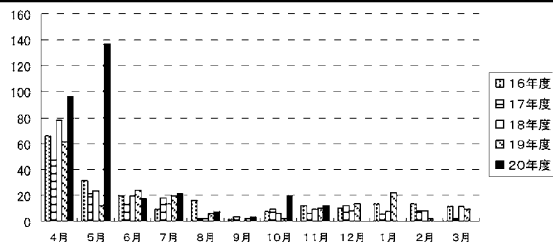
20年度の利用総数は、

- ・4月は昨年並みであった。
 - ・5月以降、ほぼ昨年との2倍となった。
- これは、

- ①担当者が、本年度より2名となったこと。
 - ②開設日が昨年の月・水・金の3日と比べ、月～金までの5日としたため、学生が利用しやすくなったこと。
 - ③学生の試験勉強への取り組みの姿勢が、仲間意識をもって協力し合うよいムードをつくり、お互いに盛り上げたこと。
 - ④各ゼミで、教職相談室を活用するように指導してくれたこと。
- などが考えられる。

2. 新規利用者数

年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
16年度	66	31	19	9	16	1	7	12	10	13	13	11	208
17年度	47	21	13	16	2	3	6	6	12	5	8	2	146
18年度	78	23	19	13	2		6	9	8	7	8	11	184
19年度	61	12	24	19	6	2	2	10	13	22	2	9	162
20年度	96	137	17	21	7	3	19	12					312



新規利用者数は H20 年度の5月に急激な伸びが見られた。口コミで、利用者が拡がったと考えられる。また、試験勉強を5月の連休明けから本格的に取り組んだと考えられる。

合格発表の後、4年生にどのように勉強をしたのか尋ねたところ、教職教養、一般教養などの筆記試験の勉強は3年生の冬から始めた学生が多く、集団討論や論文は5月以降が多いことがわかった。7月・8月の試験日に合うように各自計画的に勉強をしていたことがわかる。

8月は新規利用者数が増加していないが、一次試験を突破し、二次試験に向けて真剣な取り組みを見せ、1週間以上先の日まで予約でいっぱいになっていたため、初めて来室する者が入りやすくなったと考えられる。

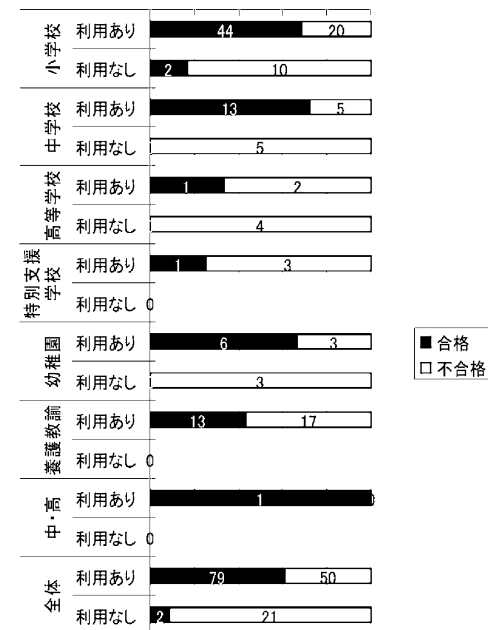
幼稚園教員採用試験の一次が8月から始まる都市が多かったため、少人数だが初めての来室者もあった。

III. 合否と利用実態との関連

学部生

教職相談室の利用	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		幼稚園		養護教諭		中・高		合計		
	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	
あり	44	26	13	5	1	2	1	3	6	3	13	17	1	0	79	50	129
なし	2	10	0	5	0	4	0	0	0	3	0	0	0	0	2	22	24
計	46	36	13	10	1	6	1	3	6	6	13	17	1	0	81	72	153

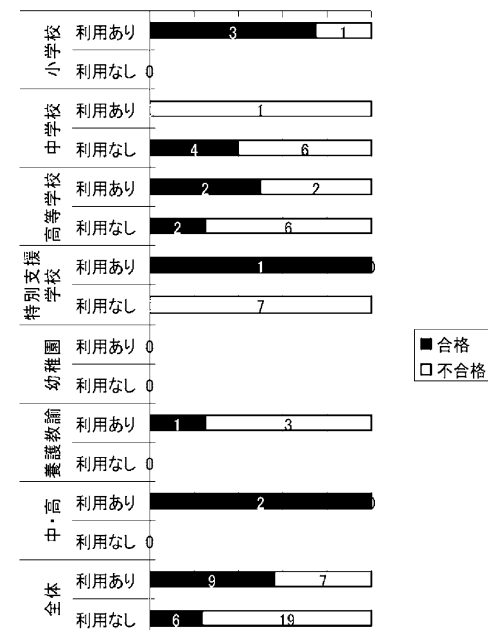
<学部生> 0% 20% 40% 60% 80% 100%



大学院生

教職相談室の利用	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		幼稚園		養護教諭		中・高		合計		
	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	
あり	3	1	0	1	2	2	1	0	0	0	1	3	2	0	9	7	16
なし	1	0	4	6	2	6	0	7	0	0	0	0	0	0	7	19	26
計	4	1	4	7	4	8	1	7	0	0	1	3	2	0	16	26	42

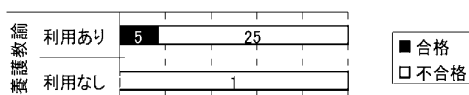
<大学院生> 0% 20% 40% 60% 80% 100%



別科

教職相談室の利用	高認教諭		合計
	合	不	
あり	5	26	30
なし	0	1	1
計	5	26	31

<別科> 0% 20% 40% 60% 80% 100%



－話し合いのリーダーになるべきか

－論作文はどのように書けばよいのか

－自分のまとめ方でよいのか

－方向違いのことを書いていないか

－試験官はどんな読み方をするのか

－どう修正すればよいのか

－面接でどこを採点するのか

－発言の姿勢はこれでよいのか

－応える内容はこの程度でよいのか

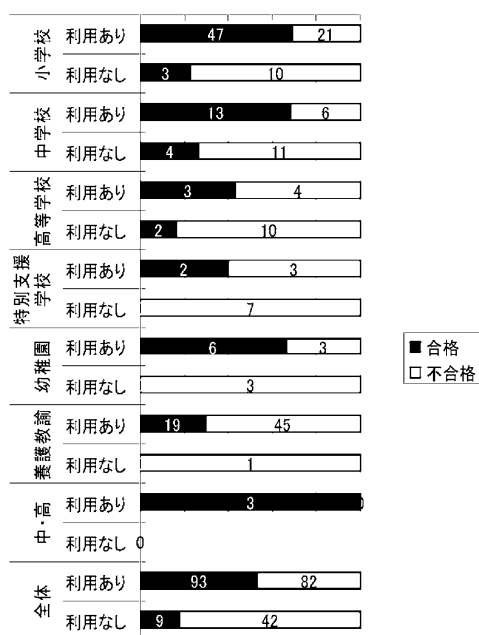
－自分のことをどう表現したらよいのか

－入退室の姿勢はこれでよいのか

全体

教職相談室の利用	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		幼稚園		養護教諭		中・高		合計		
	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	合	不	計
あり	47	21	13	6	3	4	2	3	6	3	19	45	3	0	93	82	175
なし	3	10	4	11	2	10	0	7	0	3	0	1	0	0	9	42	51
計	50	31	17	17	5	14	2	10	6	6	19	46	3	0	102	124	226

<全体> 0% 20% 40% 60% 80% 100%



など、多くの不安を抱えて、学生は来室する。その不安に対して少しでも解消、やわらげるようにしていくことが重要と考えた。そのためにわかりやすく的確に、簡潔に説明するように心がけた。また、試験本番に元気が出るように、勇気づけるよう言葉かけをした。指導者も、山脇（8月末退職）と松原が協力し合ったことも、指導室の雰囲気をよくしたと考えている。

しかし、何と言っても大きかったのは、4年生が友だちと仲良く力を合わせて試験勉強に取り組んだことだ。不安を抱えながら試験勉強を続けることは、結構つらかったことと思われるが、「一人だけではない、友だちも頑張っているということを実感しながら勉強できた。」という感想をいただいた。4年生が粘り強く努力してくれたこと、大学当局が大きな立場で支援してくれたことで、その雰囲気の持続ができたことに感謝している。

IV. 考察

教職相談室の指導効果は、特に学部生においてあったと考えられる。

V. まとめ

○開設の意義

- ・学生への安心感の提供
 - －何に取り組んだらよいのか。
 - －この勉強の仕方でのよいのか
 - －討論の雰囲気をすること
 - －発言の仕方はどんな様子か

**Provision of guidance to students wishing to become teachers (1):
Status of how the Teaching Profession Consultation Office is being used**

Yasumichi Matsubara and Ken Yamawaki

(Okayama University Graduate School of Education Master's Program)*

The Teaching Profession Consultation Office was opened six years ago. In April 2008, we succeeded our predecessor Nishizaki to provide guidance to students wishing to become teachers.

Our guidance activities center on theses and essays, individual and group interviews, group discussions, mock classes, situational guidance, and role playing. Besides these, we provided career guidance, consultation on work as volunteers and lecturers, and any other matters that concerned the students or things they wished to try out. We were also inspired by the aggressiveness of the students who came to the office for consultation, and, as a teacher at the site of education, we made sure to provide guidance and assistance by focusing on enhancing qualities as a human being that enable students to demonstrate their skills and abilities as on-site teachers.

As a result, we were able to increase the number of students who visit the office and who pass the teaching staff examination.

Keywords: Students wishing to become teachers, Teaching Profession Consultation Office, content of guidance, effects of guidance

